

第1回 松山市都市デザインワークショップ (12月15日@NBF 松山日銀前ビル)

松山市の中心市街地の活性化に係る政策課題を共有し、それぞれの立場で何ができるか、連携・協働により何が可能となるかを議論する場として、『まちなかの魅力再生と活性化』をテーマとした松山都市デザインワークショップが開催されました。第1回は松山のお城下(中心部)の魅力を考える、をテーマに、伊藤香織先生の話題提供とファシリテーションのもと、地元まちづくり組織や民間事業者、交通事業者、地元大学、松山市の等の市民、約30名が参加し、まちづくりの方向性、まちなか活性化に向けた提案などについて、チームごとに活発な意見交換がなされました。

■ワークショップの概要

日時：2013年12月15日(日) 13:30~16:00

会場：NBF 松山日銀前ビル 4階 第一会議室

テーマ：『松山のお城下(中心部)の魅力を考える』

■当日のプログラム

1. 挨拶、趣旨説明

2. 話題提供

『都市の公共空間の魅力向上とシビックプライド』(伊藤 香織氏(東京理科大学准教授))

3. ワークショップ

テーマ説明、イントロ

チーム作業① 「お城下のいいところ、好きなところ」

中心部の好きな場所、楽しかったまちなか体験を挙げてもらう。

チーム作業② 「あなたの心地よいまちなか体験は？」

まちなかでの心地よい体験、空間、場所を挙げてもらう(松山に限らず)。

< チーム発表 : 前半 >

チーム作業③ 「お城下、ここをこうしたい！」

松山のまちなかをこう変えたい!という夢を挙げてもらう。

チーム作業④ 「これからどうすればよいか？」

各チームで決めたテーマで、実現のために何をすればよいかを討議する。

< チーム発表 : 後半 >

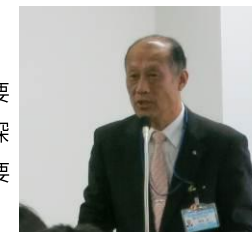
ファシリテーターからのコメント(伊藤 香織氏(東京理科大学准教授))

まとめ、事務連絡

■開会挨拶

松山市都市デザイン課の柳原企画官より開会の挨拶がありました。

「公民学が連携し、情報や課題を共有した中でまちづくりを進めていく必要がある。それぞれの立場の中でなにができるか、どう連携できるか議論を深めてほしい。中心部のまちなかの使い方や今後まちのにぎわいのために必要なものについても是非提案してもらいたい」と話されました。



■話題提供

○『都市の公共空間の魅力向上とシビックプライド』

ゲストコメンテーターとして伊藤香織先生(東京理科大学建築学科准教授)より話題提供をしていただきました。まず、シビックプライドについて、「都市に対する誇りや愛着として、“ここをより良い場所にするために自分自身が関わっているという意識を伴う当事者意識に基づく自負心”である」という説明がありました。シビックプライドを築くために、「まちと私の関係を築く」という考え方についてご紹介がありました。そのプロセスとして、「まちを知る」、「まちに参加する」、「まちに関与する」、「まちを使う」、「まちから愛される」、「まちと私の関係をみんなで共有する」、ということについて、海外諸国や国内の先進の事例を含めてご紹介をいただきました。

「都市再生には、物的再生だけでなくプライド再生が重要だ」ということ、「あなた自身があなたのまちなのです」という印象深い言葉のご紹介もいただきました。



○『松山市の中心部における動き』

松山市の中心部における動きについて、松山市都市デザイン課の大澤主任より説明がありました。松山市の上位計画である“松山市中心部都市再生ビジョン及び中心地区市街地総合再生基本計画”では、「JR松山駅周辺、松山市駅周辺、L字周辺、一番町交差点周辺、道後周辺等を拠点として位置づけしており、拠点の魅力を高めそれらを路面電車や快適な歩行者空間でつなぐことで、松山全体の魅力向上につなげていくこと目標としている」、という説明がありました。また、現在松山市で行われている、区画整理事業や道後オンセナート、ラフォーレ原宿・松山跡地開発への支援、二番町通り・花園町通りの道路再配分、等の市の取組み、また、お城下スプリングフェスタや松山まちサーベイ等の民間の取組みについて、それぞれ紹介がありました。



■ワークショップの内容



A～Dの4班に分かれ、チーム作業①～④（※表面参照）を行いました。各チームのワークショップ作業により出された提案やアイデアを下記にまとめています。

《まちづくりの方向性》(A～D班のまとめ)

○公共空間を市民に開放（整備されたものを使いこなす）

- ・無料でつかえるスペースを公共空間に確保
- ・まちなかの公共空間を「とりあえず行くところ」に
- ・再開発等で生み出される民間施設内にも使える空間を拡大
- ・堀之内とも連携

○まちなかにコンテンツを埋め込む、人が楽しめるスポットづくり

- ・いろいろな場所に感性を育む音楽やアート（スタジオがまちに飛び出す）
- ・「文化のまち」を見える化
- ・自然に人が集まる場所へ

○まちを使いやすくする環境の整備、回遊するためのルートづくり

- ・まちを使いやすくするための公共空間のルールづくり
- ・バリアフリーの徹底
- ・自転車対策（放置駐輪への対応、商店街通り抜けを防ぐ迂回路）
- ・駐車場マップ

○松山城の眺めを活かした空間づくり

- ・眺望が確保されたストリート+くつろぎ・にぎわい
- ・空間を楽しむための空間づくり
- ・城の見えるスポットを観光地化（座れる場所）

○魅力あるストリートづくり

- ・施設や名所だけに頼らない観光
- ・魅力を掘り起こす建築ツアーなど

○商店街の再生

- ・光を取り込むアーケード
- ・ゆっくり歩ける商店街
- ・L字地区に座れる広い空間（ライブできる場所、たくさん座れるスペース）

○路地裏の再生やイベント

- ・空きテナントを面白く、儲かるように活用
- ・飲み屋街の祭的なイベント
- ・地元の人で公共の空間を維持・整備
- ・路地を活用したにぎわい形成
- ・地元の人の日常が、訪れる人の非日常と感じられるようなスペース
- ・公共空間に住機能の一部を

○地元になじむ共通のサイン

- ・公共物のサイン、松山らしいサイン
- ・知らないうちになじんでしまうサイン
- ・まちへと誘うサイン計画

○『家族で来たくまなるまちなかへ』

- ・家族みんなが楽しめる空間、子どもとパパと・ママが楽しめる場所
- ・日曜に家族連れできてほしい
- ・自動車でも来やすいまちなか
- ・外で遊べる、座れる、食べられる場所

○ファシリテーター（伊藤香織先生）からのコメント

「時間が短い中で出しきれないほどアイデアが出ていました。それほど広くないまちなかなので、アイデアが似てくるかと思いましたが、色々なアイデアが出たことが個人的にも発見でしたし、嬉しく思っています。アイデアが積み重なっていくと、だんだん具体化して、「この空間でこうしたい」ということが深まっていくと思うので、あと2回のWSでは是非深めていってください。妄想力がとても大事なので、どんどん妄想して、「妄想を現実にするためのコツ」をうまくついでいってもらえれば、と思います。」

《まちなか活性化への提案、アイデア》(A～D班のまとめ)

○駅前スペースの活用、店舗スペースの共有化

- ・コンテスト、アートやパフォーマンスのステージとしての活用
- ・ビジョンを使ったプロポーズ
- ・実験的なSHOP in SHOP、ゲリライベント、イベントの共催企画

○地域資源の発掘、スポットづくり

- ・面白い建築マップ、建物の魅力発信
- ・外部の人の目線を入れる
- ・松山城の撮影スポットの見える化
- ・まちなか～温泉～お城 ランニングステーション
- ・ポケットパークの整備やコインパーキングの公園化
- ・学生でも安心して飲める横丁

○商店街のストリート、オープン化

- ・ゆかたコレクション、飲食・休憩スペース、kid'S イベントなどの利用
- ・キッチンカーの弁当屋が集まる屋台
- ・商店街のレッドカーペット化
- ・商店街を伝統のある松山に染める
- ・商店街のおしゃれな場所を核とする基地、オープンハウス
- ・まちなかが視覚的に分かる模型

○イベントの実施

- ・路面電車を活用したアートイベント
- ・カメラを持ち、歩いてイベント
- ・イベント間でデザインコンセプトを統一
- ・まちなかや堀之内で行われているイベントとの連携

○情報発信

- ・市民記者がフェイスブックで当たり前のものを発信
- ・地域の人同士が情報発信、人が情報の宝庫
- ・同じ場所を違う人がコーディネート、観光ボランティア
- ・インフォメーションセンター
- ・ポスタージャック、駅や電車・バスの車内を利用した広告ジャック
- ・まちなかの休憩スポット案内
- ・市駅から城山にかけての歩行者ルートの整備や周辺の案内
- ・並木道（花園）の楽しみ方案内

○居住以外の地区との交流

- ・お年寄りの知識・体験を話す場
- ・校区内外の話を聞く機会

○回遊性の向上

- ・デザインされた自転車でのコミュニティサイクル
- ・路面電車活用企画

○継続するための仕組み・体制づくり

- ・イベントのグラフィックツール作成クリエイターを巻込む
- ・学生を運営スタッフに入れて受け継ぎ、継続性確保
- ・大学や市、地元住民を集めておすすめスポットを出してもらおう
- ・商店街の人みんなで協力しながら作る

